

# 横芝の碑

(その八十七)

## 庚申塚の名残りを留める

### 鳥喰下と長倉の庚申様

#### 鳥喰下の 庚申様

鳥喰下の集落は、余り開発の波を被らない耕地が前面に拓けています。耕地の中には、木立や声群が小島のように点在しています。その中の小高い声群の一つに、三基の庚申様が建っています。正面には、庚申大明神、大正九年庚申三月吉日、その他地元信者の方々の名を刻んだ記念碑の様な形の庚申様が建ち、その後には、土に埋

まる様に二基の庚申様が並んでいます。二基とも庚申像は良く分るのですが、建立の年月等については一基の方は寛政十二年(一八〇〇)とだけ、そして、いま一基については、文字らしい横線だけが辛うじて見られるだけです。大正九年も寛政十二年も庚申(かのえさる)の年であることを考えますと、この一基は、やはり庚申の萬延元年(一八六〇)ではないかと思えます。

この庚申様は、昔の大平村から鳥喰下に通ずる街道の畔に集落の



▲ 写真 ①



▲ 写真 ②

目印の様な一本の松があり、その下の小さな塚の上に建っていたのですが、耕地整理の時にその街道が無くなったので、信仰厚い人々が、元の形を留めようと、良く似た地形を選び、同じ様に松も植えて、ここに移して祭ったという話です。

#### 長倉の 庚申様

長倉の産土神様は、集落を抱く様に続く背面の台地に建っています。その参道とも見なされる道路の一角に、周辺約十五m、高さ二m程庚申様の塚があります。御本像は素晴らしく鮮明で、すでにご紹介しました栗山川畔や、屋形西照寺の庚申様より勝れている位です。寛政八年(一九七六)辰十月

騒然とし始めた時、村内平穏、悪疫退散を祈願して塚を造り、庚申様を祭った、と考えても矛盾はないと思えます。

写真①は、昨年十一月頃のもので、中央は庚申様のために植えた松ですが、今はすでに倒れ、別のまだ2mたらずの松が植えられていました。この丁度下辺りに庚申様が建っています。

写真②は、長倉の庚申様で、この後方約二〇〇mが、産土神様です。この前の道は幻の街道としてご紹介しました、桜前から松尾の金比羅様に通じています。

尚、両方の庚申様とも比較的複雑な道路形式ですが、地元の方々の信仰が厚く、誰でも知っておられる所なので、探訪の節は地元でお聞き下さることをお願いし、案内図は省略させて頂きました。

町文化財審議会委員  
小沢春光氏寄稿

#### 取材に あたって

庚申様の石像等につきましましては各地区の皆さんから、いろいろと貴重なご連絡を頂いております。そして、それぞれが地域

毎の尊崇其他では、建立年代とは別の存在価値を持っていることが分つて来ました。そこで、一月からしばらくの間、各地区の未掲載の庚申様を、ご紹介申し上げます。併せてご連絡下さった方々に対し、お礼と更に今後のご協力をお願いしたいと思います。